

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		鳥取県立中部療育園					公表日	令和8年3月23日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	16	0				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	1	制度的には必要な人員は配置されている。	全体の職員数は適切であるが、一元化児童発達支援センターとしての基準に足りない職種があり、一元化であれば可能なサービスがまだ提供できていない。主管課と連携して職員配置検討を継続中。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	17	0				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	16	0	活動開始前に掃除を行い、終了後に消毒をして清潔を保っている。また子どもに合わせて空間を変更するなど対応している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	17	0				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	16	0				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	日ごろから多職種で聞いている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16	1	日々の振り返りを生かす。	利用児などへのサービス内容に関する協議は定期的に行っているが、設備や職員の業務に関して通園部として話し合う機会はない。定期面談等で個別の意見を確認し、業務改善の参考にすることはある。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	16	1		今年度は第三者評価の受審なし。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	16	0	日々あえての場はなくとも、それぞれで学ぶ場を持てるようにしている。			
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	17	0				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	17	0	個々にアセスメントを行い、支援計画を作成している。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	17	0	子どもの支援に関わる職員が顔を合わせて検討している。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	17	0	共有され、計画をもとにして活動内容等検討・実施されている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	0	検査に頼りすぎず、子どもの行動と客観的評価を照らし合わせていく。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	16	0				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	1	行っている。	保育士を中心としながらも、活動プログラムの立案は、各職種の職員が主体的となってチームとして取り組めるように行っていく。		

の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16	0	意図的に同じことを複数回繰り返すことはある。 児によっては、目的をもってプログラムを固定化する場合もある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	16	0	子どもの状況等に応じて支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	16	0	行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	16	0	共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16	0	リハ記録と合わせてすすめる。 繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	16	0	相談支援との連携。 行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	16	0	参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15	0	支援者同士の連携が密である。 連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	16	0	情報共有を行っており、お互いに出向いて子どもを見たり、会議に参加しあったり等している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	16	0	行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	8	1	地域療育セミナーを開催し、中部圏域の事業所にも案内している。 部分的になりがち。特に専門領域は難しい。 施設支援や圏域の自立支援協議会（こども部会）への参加、ケースを通しての連携を図っている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	9	0		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	9	0		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	9		園に在籍している児童が多く所属している。 園に所属していない児童は、初めての活動をする場が、こちらの通園の方が殆どで場慣れに時間を要するので特に機会を設けていない。 そのような機会がない。 利用児童のほとんどが並行通園であるため、地域のこども園等との連携は行っていない。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	16	0	日頃から行っている。		

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	0	地域療育セミナーや教育委員会による就学説明会など保護者の研修を行っている。情報提供は適宜。 ペアレント・トレーニングを実施していないが、活動の中で家族の対応力向上に必要な助言や情報提供等を行っている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	16	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	17	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14	0	ご利用のたびに行っている。必要に応じて電話での相談もある。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13	1	保護者会を開催している。 保護者会を開催している。きょうだい同士で交流する場は設けていない。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	13	2		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	17	0	十分留意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15	1		足りてないところもある。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	4	地域のコミュニティセンターと連携し登園の活動に関する情報を発信している。 療育セミナーについては、地域へ参加を呼び掛けている。事業所内へ招待することは行っていない。 地域の自治会と連携を始めたところである。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	16	1	職員には会議等で周知されている。家族には入口付近にマニュアル等を配置し周知を図っている。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15	0	避難訓練を行っている。 訓練は年度末までに実施予定。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	14	0	看護師が行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15	0	食事を提供する際は、必ず保護者からアレルギー表を提出してもらっている。おやつに関しては、保護者にアレルギーの有無を確認して提供している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13	1		わからない。
50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13	1		家族等へ周知されているかわからない。	
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	16	0			

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16	0	虐待防止研修を行い、適切に対応している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	15	0		ケースがあまりない。